

## 学校再編における津山地域の統合校舎について

### 1 統合校舎位置のあり方

これまで5回にわたり津山地域学校再編準備委員会を開催し、統合の実施や校舎の位置などについて、保護者アンケート、学校訪問などを行いながら様々な視点で検討を重ねてきた。これらを踏まえて、統合校舎の位置について、市の関連計画等との整合性を図りながら他の視点も含め検討を行った。その結果、統合校舎の位置については、「児童の安心・安全」を最優先と位置付けて検討されるべきと考える。

### 2 検討する上での視点

#### (1) 防災の視点

- 津山中学校及び横山小学校の校舎については、土砂災害警戒区域にあるため、大雨時には避難所として利用できないのに対し、柳津小学校の校舎については、浸水想定区域であるものの洪水発生時には2階以上に退避することで、洪水から逃れることが可能となっている。
- 周辺環境を比較した際、津山町区域の避難場所が登米市津山林業総合センター等となっており、ハザードマップ上の避難方向も横山地域から柳津地域へととなっている。

#### (2) 周辺環境の視点

- 放課後児童クラブについては、柳津小学校の校舎を利用する場合は、現在と同様に登米市津山林業総合センターで実施することとなり、横山小学校の校舎を利用する場合は、津山公民館等の施設を使用することが考えられるが、施設位置については、学校から近い位置が望ましく、学校、放課後児童クラブ等で長時間子どもを預かる際は、より安全性の高い場所で行う必要がある。
- 令和2年4月から認定こども園がつやま幼稚園跡に開園する。

#### (3) まちづくりの視点

- 登米市で策定した「都市計画マスタープラン」における津山地域のまちづくりについては、柳津地区を地域の主要な地区と位置づけ、地域生活に必要な機能を適切に配置し、地域生活の中心づくりの誘導を図ることとしている。